

わたしは牧師ですから、聖書や教理についていろいろな質問をされることがあります。お会いして直接お聞きすることもありますし、メールのときもあります。

「聖霊って何ですか」、「どうしてイエス様は一度天に戻られたのですか」、「三位一体ってどういうことですか」、様々な質問に対して答えることができることもあれば、何だかごまかしたように見えることも正直あります。

神さまはわたしたちを愛し、救いの計画の中に組み入れてくださっています。しかしイエス様が再臨し、終末が訪れるまでは、その全容は明らかにされていません。「秘められた計画」のままです。

教会の中には終末を強調し、裁きを逃れるためにはどういふことをしなければならぬかを具体的に説くところもあります。しかしそのような教会は多くの場合、「異端」や「カルト」と呼ばれることが多いようです。

神さまはその核心部分を、あえて隠されているようです。福音書の弟子たちが、復活を通してしかイエス様の本当の姿を知り得なかったように、わたしたちも再臨を通して初めて、救いの計画を見ることができるのかもしれませんが。

しかしその中で、神さまは「神の国の先取り」を見せてくれます。それがカトリック用語で秘跡、聖公会では聖奠と呼ばれるものです。

聖公会では洗礼と聖餐を聖奠(sacrament)として、大切に守っています。その式の中で、わたしたちは神さまの臨在を感じ、神さまと共にいることを確信できるのです。

次回は「被造物」です。お楽しみに。



「イエス・キリストの昇天」
ジョン・シングルトン・コプリー
(1738~1815年)

初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。

(エフェソの信徒への手紙 3章3節)

